

長生管内稲作農家 各位

長生稲作情報 第1報

(令和8年5月22日発行)

長生農業事務所 改良普及課

担当：黒住、高内、河田

電話 0475-22-1771

管内稲作農家の皆様、日々の農作業お疲れ様です。当事務所では、水稻栽培に関して長生地域の生育状況などを発信するツールとして、毎年長生稲作情報を発行しています。今年度も別添の県全体版の生育情報とともに水稻栽培の参考にして下さい。

◎長生地域の生育状況

育苗期間について、浸種時期の3月中旬に低温の期間がありましたが、その後は4月中旬まで気温は平年より高く推移しました。そのため、出芽はおおむね順調でした。4月上旬は気温が高く日照時間が少なかったことから、一部苗の徒長が見られました。4月中旬は、一転して日照時間が多くなったため、根張りの悪い苗ではムレ苗の発生が見られました。その後、4月中旬から下旬にかけて、もみ枯細菌病等の細菌性の病害が多く発生しました。細菌性の病気は、育苗ハウスの温度が30℃以上になると発生しやすくなります。一度発病すると水を介してハウス内に急激に広がり、発病後に治療することはできません。温度が上がりやすい晴天や薄曇りが予想される日は、遅くとも朝8時までには育苗ハウスの換気を開始し、ハウス内の温度を30℃以下に維持することが大切です。

田植え後の生育は、5月前半に強風の日があり、移植直後に強風に遭遇したほ場では活着の遅れが見られました。また、ゴールデンウィーク以降、ジャンボタニシによる食害が目立ち始めています。ジャンボタニシによる食害を回避するため、浅水管理をしているほ場が多く見られますが、5月中旬から降水量が少なく、気温が高く推移していることもあり、田面水がなくなっているほ場が散見されます。生育初期に水が不足すると分けつが停滞して莖数確保が難しくなり、減収につながります。定期的にほ場を確認し、必要に応じて給水しましょう。そのほか、藻の発生やイネゾウムシなど初期害虫による食害が見られます。

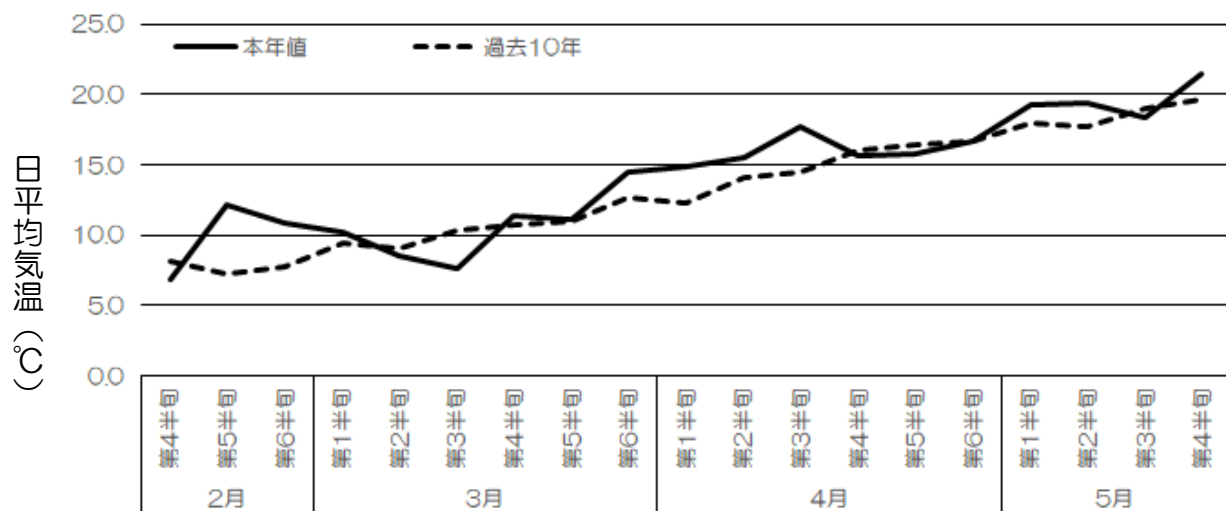


図1 日平均気温 (°C) の推移 (アメダス茂原)

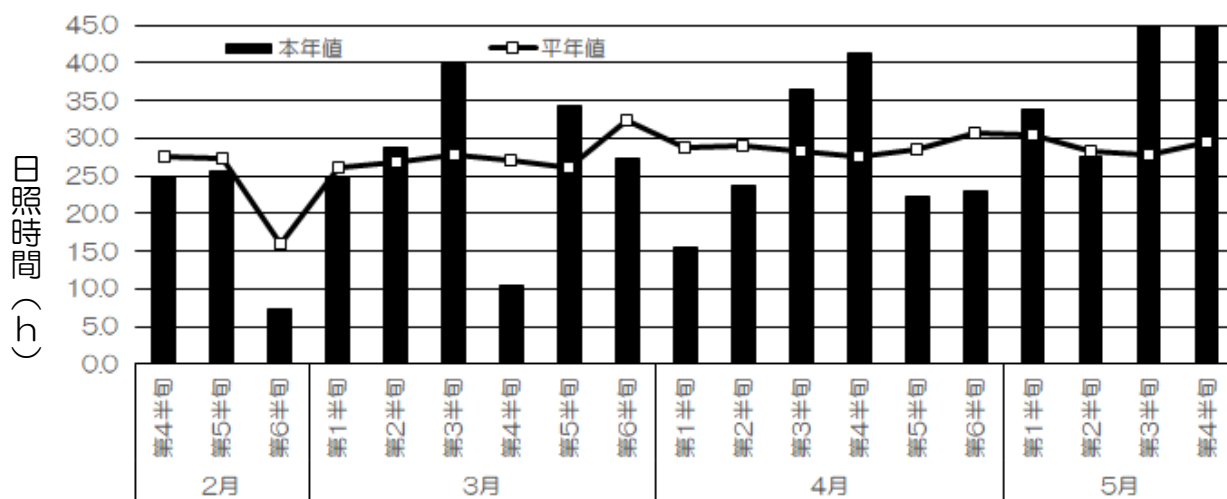


図2 日照時間 (h) の推移 (アメダス茂原)

※気温の平年値は過去 10 年間、日照時間の平年値は 1991 年から 2020 年の 30 年間。

◎今後の生育管理について

浅水管理による茎数確保を図りましょう。

目標茎数（右図:幼穂形成期の目標茎数の80%）が確保されたら、中干しを行いましょう。

ジャンボタニシに対しては、生育が遅れているほ場や5月植えのほ場では、浅水管理や防除剤散布により引き続き食害に注意してください。藻の発生ほ場では早期に「モグトン粒剤」（収穫45日前まで）を散布しましょう。

表.中干し開始時の目標茎数
(栽植密度 18.5 株/㎡の場合)

品種名	目標茎数	
	本/㎡	本/株
ふさおとめ	440	24
ふさこがね	360	20
コシヒカリ	300	16
粒すけ	440	24



水稻生育予測システム「でるた™」を使うと、スマートフォンやパソコンで、生育予測と推奨される水稻の作業適期目安を閲覧できます。左のQRコードをからアクセスできます。ご活用ください。

◎中干し、溝切りについて

6月の幼穂形成期に向け、5月下旬から中干し適期に入ります。特に、近年は移植後の気温が高まっており、初期生育が旺盛になっています。茎数が過剰になると穂数、粒数の過剰につながり、整粒歩合の低下や高温登熟障害の多発の要因となる可能性があります。中干しの主な効果は、①水稻の生育制御による受光態勢の維持と倒伏の軽減、②根の活力の向上及び維持による登熟の促進と玄米外観品質の向上、③田面の水はけを良好とすることで収穫期の地耐力増加等があげられます。

また、溝切りをすることで効果的な中干しができるだけでなく、早く均一に灌漑することができ、灌漑水が不足しがちな中干し後の入水時においても有効です。ぜひ1枚のほ場だけでも溝切りを行ってみてください！

◎高温対策としての「けい酸加里」の追肥

倒伏軽減やいもち病対策として知られているケイ酸ですが、根の吸水力を向上させる効果があり、蒸散量が増加して葉温の上昇が抑制され、高温による品質低下を軽減させる効果があります。追肥で施用する場合は「けい酸加里」20～40kg/10a を中干し前（田植え後 30～45 日）に施用します。

今年も暑い夏が予想されていることから、事前の対策として施用を検討してください。

千葉県の子節予報

関東甲信地方3か月予報（06月～08月）

2026年05月19日14時00分 気象庁 発表

06月～08月	気温	平均気温は、高い確率70%です。
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
07月	天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
08月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。

気温、降水量の各階級の確率（%）

気温	関東甲信地方	06月～08月	10 20 70
		06月	10 30 60
		07月	10 30 60
		08月	10 30 60
降水量	関東甲信地方	06月～08月	30 30 40
		06月	30 30 40
		07月	30 40 30
		08月	30 40 30

■ 低い(少ない)

■ 平年並

■ 高い(多い)

次回発表予定等

次回は2026年06月23日(火)14時00分に発表予定

最新の1か月予報もあわせてご利用ください。 暖候期予報として発表していたこの夏（6～8月）の予報については、今回の3か月予報等最新の予報をご利用ください。

◎令和8年度堆肥等利用促進事業について

県では環境負荷を低減した「環境にやさしい農業」の推進に向け、ペレットたい肥又は家畜ふんたい肥を原料とした肥料の試験栽培に取り組む団体等（農業者が組織する団体、農業協同組合、農業協同組合連合会、市町村が構成員に含まれる協議会、その他知事が認める団体）に対し、試行導入のための肥料の購入に係る経費を補助します。

＜公募期間＞令和8年5月15日（金）から令和8年6月5日（金）午後5時まで

＜補助率・補助上限額＞1／3以内・1団体当たり20万円

応募に当たっては、書類作成が必要です。本事業の活用を希望する団体は、QRコードから県ホームページをご確認の上、長生農業事務所企画振興課（電話：0475(22)1751）までお問合せください。



次回の情報は6月3日（水）に発行する予定です。

難防除雑草

「ナガエツルノゲイトウ」に注意!

河川・用水路を介して*特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の発生区域が拡大しています。定着すると駆除が困難な雑草で、生態系や農業へ悪影響を及ぼします。用水路、水田の水口付近や畦畔を見回り、早期発見・早期駆除に努めましょう。

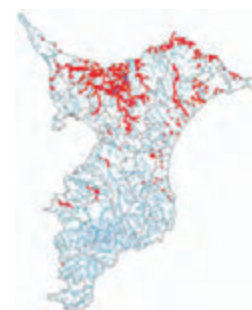
※特定外来生物は、法律で栽培・運搬等が禁止されています。

特徴

【再生力:大】数cmの茎断片から容易に発根

【拡散力:大】茎はちぎれやすく、水に浮く

【侵略性:大】乾燥に強く、畑地などにも侵入



県内の分布状況(2023年)
(県調査結果により作成)

注意!

刈払機を使った除草は、茎や根の断片が
周囲に飛散してかえって発生場所が拡大します!



ナガエツルノゲイトウの見分け方



【葉】

節から一對の葉

葉の先はややとがる

1cm
長さは 2.5~5 cm
幅は 0.7~2 cm

【茎】

1mm

茎は空洞（ストロー状）

節に短い毛

茎の表面はなめらか

節からよく分枝

【花】

開花期:6月~10月

球状花の直径は
約 1~1.5 cm

花柄は約1~4 cm

花柄は葉の脇から伸びる



水路で群落となる

間違えやすい植物

ツルノゲイトウ（外来種）



・球状花は葉の脇にくっつく
※ 花のない時期は見分けが困難

アメリカカサブロウ（外来種）



・葉の鋸歯は明瞭
・花は球状でなく平たい

タカサブロウ（在来種）



・葉の鋸歯は不明瞭
・花は球状でなく平たい

出典:ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)

水田における対策

水田に侵入させない

- 水口に3ミリ目程度の種子もみ袋等の網を設置し、茎や葉の流入を防ぎましょう。
- 水田に侵入していないか、水口周辺をこまめに観察しましょう。
- 耕うん機等に付着して拡散するので、発生の無い水田から耕うんし、よく洗浄しましょう。



網を設置し茎断片の侵入を防止

水田や畦畔でまん延させない

畦畔・本田で発見した場合は、下図を参考に除草剤で防除しましょう。

※ラベルの表示を事前にしっかり確認(適用場所・使用量・散布回数等)

※刈払機で除草すると、茎や根の断片が周囲に飛散して断片から再生するため、かえって発生場所が拡大します。

		移植		中干し		出穂		収穫	
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
畦畔防除	いずれかを散布	●カソロン粒剤6.7 ※畦畔崩壊しやすい場合			●ザクサ液剤				●ラウンドアップ マックスロード
			●ラウンドアップ マックスロード		●ロイヤント乳剤 ・収穫前45日まで ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで				
水田内防除	区分	移植			中干し				
		4月		5月		6月			
	体系防除A (散粒機及び大型噴霧器使用)	●バッチリLX1キロ粒剤 (田植同時～移植後7日)			●ロイヤント乳剤 (移植後約40日) ・落水又はごく浅く湛水 ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで				
	体系防除B (散粒機使用)	●ピラクロン1キロ粒剤 (田植同時～移植直後)			●ウィードコア 1キロ粒剤 (移植後約15日) ・ナガエツルノゲイトウの草丈5cmまで				

本資料に係る研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」JPJ0079666の補助を受けて行った

水田以外の対策

- 群落規模や現場条件に応じて、人力または重機での抜き取り・剥ぎ取りを検討。
※成長の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効
※除草剤は水系に流出するおそれのある場所では使用しない。(河川敷や水路など)
【その場で枯らす場合】
 - ①袋に密閉して、厚手のブルーシートの上に置くなどして枯らしてください。
 - ②自治体のごみ処理方法にしたがって処理してください。

「ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル」(農林水産省、環境省、農業・食品産業技術総合研究機構)より抜粋

【お問合せはお近くの農業事務所まで】 作成:千葉県農林水産部環境農業推進課
令和6年11月

